

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一 2:6～9 「神の知恵」

[6] 「しかし私たちは、成人の間で、知恵を語ります。この知恵は、この世の知恵でもなく、この世の過ぎ去っていく支配者たちの知恵でもありません」

パウロはこのように言うことによって、コリントのクリスチャンたちはまだ成人ではないということを示している。「成人」とはIコリント3:1にあるように「御霊に属する人」のことであり、信仰的に成長している人のこと。このような人々の間でこそ知恵が語られなければならない。この世の知恵はそれぞれの時代に縛られ限定されている思考に過ぎない。それらは変遷し、過ぎ去っていく。ではパウロが言う「知恵」とはどのようなものか。

[7] 「私たちの語るのは、隠された奥義としての神の知恵であって、それは、神が、私たちの栄光のために、世界の始まる前から、あらかじめ定められたものです」

神の知恵は時代を超越した隠された奥義である。この「奥義」とは、人間の能力では発見できず、神がよしと見られた時に、それを啓示され、人間に理解できるようにされる神の御計画で、それは神が信仰者たちの栄光のために世界の始まる前から、あらかじめ定められていたものである。ひとことで言えば、神の救いの御計画全体のこと。

この神の救いの御計画の具体的な現れがイエス・キリストご自身である。→ヨハネ3:16

[8] 「この知恵を、この世の支配者たちは、だれひとりとして悟りませんでした。もし悟っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう」

神がそのひとり子をお送りになって、この世をお救いになる計画、この知恵はこの世の支配者たちによっては理解されることはなかった。もしそのことを悟ることができたならば、彼らはイエスを王の王、主の主として迎えることができたであろう。しかし、実際は彼らはイエスを十字架につけてしまったのである。ある人々は救い主として来られたイエスは十字架にかけられて死んでしまったので、神の救いの計画は失敗したのではないかと言う。しかし、このイエスの十字架の死こそ世の始まる前から定められていた神の救いの計画の成就なのである。→マタイ26:52～56、ヨハネ19:30

[9] 「まさしく聖書に書いてあるとおりです。『目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。』」

パウロは旧約のイザヤ書64:4と65:17から引用して神のすばらしい救いのみわざをほめたたえる。神の備えてくださったすばらしい救いにあずかった者、神を愛する者、信仰者たちはパウロとともに神の救いのみわざを感謝しつつ、ほめたたえる者とされているのである。